

佐賀県教育センター 所 報

No.63

も く じ

○ 巻頭言「世界を知り、日本を知る」	1
○ 指導のチェックポイント・小学校算数	2
○ 平成4年度長期研修生・教育実践レポート（中学校国語）	4
○ 平成5年度新設講座「受講者の声と講座風景」	6
○ 平成5年度長期研修生紹介	8
○ 指導資料ガイド	9
○ 教育相談Q&A	10

巻 頭 言

世界を知り、日本を知る

佐賀県教育センター 次長 迎

巖



世界を知り、日本を知る

—確かな明日を求めて—

これは、10月24日から11月9日まで、ヨーロッパの教育事情の視察のために派遣させていただいた、平成5年度文部省教員海外派遣（短期派遣）第411団（佐賀県）22名の視察テーマである。

視察内容等については、後ほど報告させていただくが、

「世界を知り、日本を知る。」

「日本を知り、佐賀を知る。」

というのは、研究・研修の事業に携わらせていただいている、常日頃から頭にあった私の研修テーマの一つでもある。

先日、教育センターにお見えになったある講師の方は、講義の中で「一度、日本を出なさい。それによって日本がわかる。」とも言われていた。

もっと、視野を広げ、大きな目で物事を見なさいと、言われたのであろうと思う。

日本を出て、アジア、ヨーロッパ、アメリカなど違った世界を体験することにより、それぞれの国の文化や歴史に触れ、人々と交流し、その国を理解し、世界を知ることが始まるのである。そして、日本を見直し、佐賀を見直し、自分を見直すことが始まると思う。

次代に生きる日本人を育成する任を負っている私達は、まず、我が国の文化や伝統に対する理解と関心を十分に深め、日本人としての自覚のもとに、世界とのかかわりを持ち、諸外国の人々の生活や文化の理解に努め、尊重していく態度を養う必要があると考える。

当センターにも、昨年はアセアン諸国連合から、本年も、中国広西教育委員会とアジア・ヨーロッパ国際交流基金中学・高校教員（9か国）など、諸外国から毎年訪問があるが、これらの機会を利用して国際理解を深めていきたいものである。

平成4年度 長期研修生・教育実践レポート（中学校国語）

学習効果をもめる文法指導体系の見直し

～付属語の特質や働きに着目して～

大和町立大和中学校 教諭 井手 ゆずら



1 主題設定の理由

中学校における「文法」学習は、生徒の最も苦手とする領域の一つである。指導に要する時間確保の難しさともあいまって、生徒の文法力に関する定着率は低く、充実感を与えることができないのが現状である。教師対象のアンケート調査から、次のような問題点が浮かびあがった。

- ・小学校、中学校、高等学校での文法学習の関連の考慮が必要ではないか。
- ・生徒は中学1年の最初の段階からつまずきが見られる。指導の順序性については、前段階で「付属語」や「活用」を指導したほうが、効果は高いのではないか。

そこで、中学校における文法指導の現実を把握したうえで、既習の「文法」学習の知識に基づいた指導法の工夫を図りたい。

2 研究の仮説

文法の指導において、小学校の文法指導体系を十分理解したうえで、中学校段階では〈言葉の単位－単語の種類－文の組み立て〉という順序で指導し、また、各品詞については〈付属語から自立語へ〉という指導順序の組み替えを図れば、生徒の理解を深め、言葉に対する意識を高揚させることができるであろう。

3 研究の実際

(1) 生徒の実態調査と考察

中学1年で学習した「文法」の力の定着を図る調査を実施したところ、全問正答者が最も少なかったのは「文節を自立語と付属語に分ける問題」であり、誤答はほとんど付属語の部分であった。

- ①付属語を含めた一文節を自立語とする誤り……こうで あった
- ②自立語を含めた一文節を付属語とする誤り……なって 得ない
- ③活用語尾を付属語とする誤り（特に活用の学習をしていない1年生）…白い

これらは、付属語そのものを見分けることができない、また、「付属語とはそれだけでは意味のはっきりしない単語」と考えることからくる誤りであると思われる。

次に、「用言の活用」について、そのつまずきを探るため、活用語尾を補足完成させるテストを実施した。誤答例を分類すると、以下のとおりであった。

- ①未然形（～ウにつながる形）の理解不足
……空白のままの無回答多し
- ②現在形と過去形の混乱
……起(き)(た)とき 忘(れ)(た)とき
- ③形容詞と名詞＋助動詞の混乱
……白(な)(ら)ば 白(だ)(ろ)う

これらは、助動詞の意味や活用を理解していないことから起きる誤答である。「用言の活用」を理解させるには、付属語の意味や活用の理解が必要であることを示していると言えよう。

(2) 小学校・中学校及び高等学校の関連

新指導要領では、国語科教育の一貫性がますます図られるようになった。「文法」の学習においても、生徒に抵抗感を与えないように一貫性を持った授業を組み立てていくことが重要である。生徒は小学校では、一通り「文法」学習をしてきている。用語も、文の成分名は「主語、述語、接続語、修飾語」を、品詞名は「名詞、動詞、形容詞、形容動詞」を学習している。また、「助詞、助動詞」は用語は出ないが、その働きについての学習をしている。これら、既習の知識を中学校での学習に組み込むと、授業の連続性を図ることができよう。

また、高等学校では古文の授業が始まるのは単元2ないし3であり、生徒は入学早々文語文法に取り組む。7割の教科書には「助詞、助動詞、用言の活用」の取立て教材があり、学習にはそれらの口語文法の知識が必要である。

学期	指導内容（□内は付け加えた指導事項）	学習の効果
1年 1学期	○言葉の単位 単語 文節 文 文章 段落 ↓ 1. 単語には自立語と付属語がある。 自立語＝単独で意味が分かる単語 付属語＝意味を付け加える単語 2. 付属語の存在は日本語の特徴のひとつである。 ・文末決定性 ・付属語が文の成分などを示す。	・単語の一つ一つに意味があることを理解できる。 ・「理解」「表現」との関連性 文末表現(※)の重要性を知る。 主語－述語の関係を明確にする。 ・「日本語」への興味（英語などとの比較を通して）を持たせることができる。
2学期	○言葉の分類（十品詞） 1. 付属語〔助詞 助動詞〕 付属語とは話し手（書き手）の意図・態度・気持ちを表す単語である。 「助詞・助動詞一覧表」配布 「助動詞の活用例一覧表」配布 2. 自立語 ①小学校既習〔名詞 動詞 形容詞 形容動詞〕 ②新出〔副詞 連体詞 感動詞 接続詞〕	・「理解」「表現」との関連性 付属語が示す話し手（書き手）の意図を正しく把握する姿勢を育てることができる。 ・同形の「自立語」と「自立語＋付属語」の見極めができる。 （例）「上品だ」と「山だ」 「この」と「この」など
	○指示語の働き	指示語(※)
3学期	○接続語の働き	接続語(語) (※) ※1年生の段階で読み取りの3つのポイント(※印)を文法学習の上からも押さえることができる。
2年 1学期	○用言の活用	・活用の大まかな形を助動詞で既習している。 ・後に続く付属語の意味内容から活用形を識別できる。 ・後に続く付属語の形の知識から、用言の活用した形が、どこまでであるかを見分けることができる。
2学期	○助詞の機能 ○文の組み立て（文の成分）	・助詞について大まかな知識を持っている。 ・各品詞の働きについての知識を持っている。 ・助詞が語と語をつなぎ、その関係を示すという知識を持っている。
3学期	○助動詞の機能	・助動詞について大まかな知識を持っている。

(3) 「文法」指導順序の再考

中学1年から2年にかけての「文法」指導順序を次のように考える。なお、上記の表は、東京書籍教科書の教材配列を基盤にしている。

◎中学2年で学習している付属語を中学1年から徐々に指導する。そのとき、付属語の持つ意味や働きをきちんと押さえさせる。

◎「文の成分」の前に「単語の種類」の指導をする。

この順序で指導した場合、中学2年での学習時には、既習の知識のうえに立って効果的に学習を進めることができるであろう。

(4) 検証授業後の生徒の「文法」の力

大和中学校で1年2学期の授業を仮説に基づいて行った。その結果、定期考査での「文中から自立語を抜き出す問題」では、他クラスに比べ、正答者が多かった。また、3学期の動詞の活用の学習では、活用

している動詞と付属語とを分ける問題において正答率に20%以上の差が見られた。

5 研究のまとめ

事前に付属語についての大まかな知識を学習させると、その知識は「活用」の学習時に効果があった。付属語を先にする指導はその後の学習にとって有効であると思われる。

また、日本語の特徴の一つである付属語を取り立てた結果、生徒は単語一つ一つに意味のあることを認識し、それぞれの意味をとらえようとする姿勢が養われた。さらに、学習し始めた英語との比較を通して、生徒は、日本語についての興味、関心を深めた。そして「文法」学習の意義を見だし、国語を尊重しようとする姿勢が養われた。これは学習意欲の向上に結びつくものと思われる。

今後の課題として、いつ、どれだけのことを生徒に指導するのがより効果的であるかの検討を加えていきたい。

平成5年度新設講座 受講者の声と講座風景

<中学校家庭科講座>

『明日からの授業の活力剤!!』

佐賀市立城南中学校

教諭 案田 美紀子

今回の学習指導要領の改訂で家庭科に新しく「家庭生活」という領域が設けられ、私たち家庭科担当教員は初めての取り組みに不安や疑問を抱きながら1学期を過ごしてきました。そのような中に今回初めて中学校家庭科講座が開講され、当然、「家庭生活」についても取りあげられており、何か指導法の手がかりを見つけられるのではないかと、即受講しました。

「家庭生活」の学習指導と消費者教育については、講義、授業実践報告、協議と大変有意義なものでした。特に「家庭生活」の特徴とその問題点について考えさせられるところが多く、盛りだくさんの内容の中から、どれを重点的に指導していかねばならないのか、その選択の重要性を感じました。また、授業実践発表では、現在、試行錯誤を重ねながらの毎日の私にとって、研究・実践と実績を積んでこられた先生方の取り組みの実際を学ぶことが一番の活力剤となりました。

「食物」領域に関しても、食物が人体に及ぼす影響等、主に健康とのかかわりについて述べられ、さらには子どもの心理面に至るお話まで大変興味深く、家庭科の果たす役割りを、改めて考えさせられました。

この2日間の講座を通して、日頃悩んで



手づくり教育かるた

いた教材研究の糸口が見出せました。ここで学んだことを2学期からの授業づくりに生かしていきたいと思っています。

<パソコンOS講座>

『パソコンに自信が持てるようになった』

佐賀県立佐賀工業高等学校(定時制)

教諭 武藤 隆信

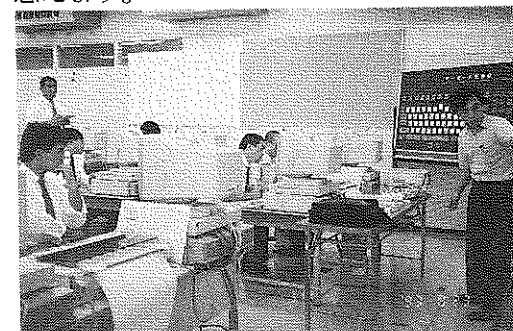
わたしがパソコンを始めてからもう十数年が立ちます。私は、初めからプログラムを組むなど考えないで、もっぱらアプリケーションソフトに頼って、それを道具としていかに使うかを考えてきました。その頃は、最初からDOSが組まれていましたので、OS等考えなしにできるようになっていました。

しかし、最近のソフトは大変な変わりようで、大容量ハードディスク及び増設メモリーなしでは動かないものばかりになってきましたし、生徒にプログラムの勉強をさせるにも、現在はOS上でBASICやC言語などをするようになり、起動を自動的にその環境に持ってきたり、使用中でのレスキューが必要です。また、大容量で複雑になってきたアプリケーションソフトをハードディスクに組み込んだり、各々のパソコンでベストの状態を使うためには、各々の環境作りは自分でやるしかありません。また、人に頼むにしても、使用中のアクシデントに、即対応するには、OSが必要になります。

今回センターで初めて「パソコンOS講座」があると聞いて、何はともあれ申し込みをしました。個人でやっているとうしてもいきづまりが生じ、それが長続きの分かれ道になりがちです。

この講座を終えて、OSは「難しい」とか「怖い」とかいう先入観から少し脱皮できたような感じがします。また、自分のシステムは自分で構築または修正できるよう

にやっていけるきっかけがつかめたように思えます。



マシン実習風景

<校内研究講座>

『教師が変われば、子供も変わる』

浜玉町立浜崎小学校

教諭 瀬戸 文隆

この講座が、今年初めて開設されたということを知って意外な感じをもちましたが、その最初の講座にめぐりあえたことは幸運でもありました。

そもそも、この講座を受けてみようと思ったのは、校内研究の方法や内容を知りたいということと、他校の校内研究の様子を知りたいということでした。

『教師が変われば、子供も変わる』とよく言われますが、まさにその通りだと思います。私自身を振り返ってみても、自分が前向きに取り組んでいるときは児童も一生懸命取り組むし、逆に、油断ややすきがあるときは何かと問題行動を起こしたものです。

校内研究の一番いいところは、日常の教育実践の中から発生してくる課題を、全職員で取り組むことではないかと思っています。個人研究では、どうしても視野の狭い研究になりがちではないでしょうか。その点、校内研究は全職員の知恵を出し合って客観的、多面的に追及ができます。また、文献や資料等も多く、情報交換も容易にできます。

しかし、それ以上に教師集団の意識の高まりが生まれます。教師集団の高まりは児童の高まりを生むのではないのでしょうか。校内研究は教師個人の技量も高まりますが、この教師集団の高まりこそが、児童が変わる大きな源であると思います。

本講座で当初の思いはほぼ達成でき、教

師の意識変革が、児童に大きな影響を与えることを再認識しました。

『新設講座で、共に学ぶ喜びを』

鳥栖市立田代小学校

教諭 久富 明美

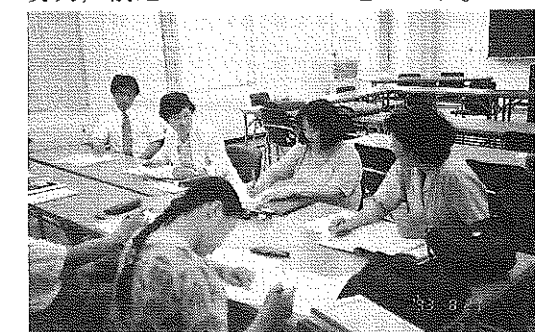
諸先生方の講義や実践発表に感動と反省と意欲が交差した有意義な4日間でした。

昨年転勤してすぐ、教務主任と研究主任の役が同時にまわってきました。若い先生方といっしょにがんばっていかうとはりきってはみたものの、力量不足で苦しい日々でした。だから、すがる思いで、この講座を希望しました。

前半の2日間(5/27, 5/28)には、校内研究の主題・仮説の設定の仕方、実態調査のしかた、研究計画と研究組織の作り方などを学びました。校内研究の教科ごとに別れて、教育センターの先生方を囲んでの演習は、現場ですぐ役に立つヒントも多く、メモを取る手もはずみました。さっそく、本校の校内研究の見直しと、月別年間計画表づくりなどをし、学校へのおみやげにしました。

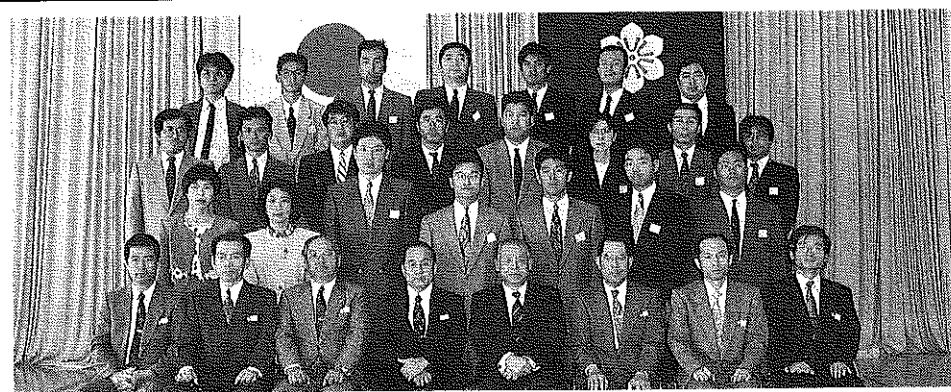
後半の2日間(8/26, 8/27)には、授業研究の進め方を中心に、資料のまとめ方や冊子のつくり方までくわしく説明がありました。グループ演習では、いろいろな意見交換の中に、研究時間不足、研究授業をひきうける人がいない、共通理解の難しさなど、現場での悩みも出し合い、研究も親睦も深まりました。

いただいた多くの資料も参考に、本校に合った校内研究の在り方を探り、新学力観に立った指導内容及び指導方法の工夫や改善なども、みんなで協力して、日々勉強、努力、前進していきたいと思っています。



グループ演習風景

平成5年度 長期研修生紹介



入所式

氏名	所属校	研修領域	研究主題
松永 富子	春日小学校	小学校 国語	作者の想いを豊かに読み広げる詩の指導 ——効果的な「読み比べ活動」を通して——
吉永 素子	曲川小学校	小学校 国語	民話教材における読みを深める指導の工夫 ——「かもとりごんべえ」の劇化を通して——
下川 雅彦	本庄小学校	小学校 算数	算数のよさを感じ、活用する子どもを育てる指導法の研究
杉本 光史	龍小学校	小学校 算数	自ら数理を追求する子どもを育てる算数科指導法の研究
稲富 博茂	福富小学校	小学校 算数	算数科における「関心・意欲・態度」の評価に有効な児童の行動レベルに関する研究
山下 正俊	西郷小学校	小学校 理科	子どもが意欲をもって主体的に取り組む理科学習指導の工夫 ——6年「土地のつくりとできかた」——
谷口 一之	開成小学校	小学校 音楽	自ら音楽を聴こうとする意欲を高めるための鑑賞教材の指導法について
森山 茂	吉田小学校	小学校 特別活動	一人一人の意欲を高める学級活動指導法の研究 ——座席表や評価法の工夫を通して——
浦郷 孝一	志道小学校	小学校 C A I	小学校4年理科におけるコンピュータの利用についての研究 ——単元「流れる水のはたらき」の学習を支援するソフトウェアの開発——
古賀 勝利	東青振中学校	中学校 国語	言葉の学び手を育てる小説教材の指導 ——小説教材に「語り手」を仮構して——
太田 義博	西部中学校	中学校 数学	「思考実験」の場を設定した数学科指導法の研究 ——第1学年の「数量関係」領域の指導を通して——
御厨 昭彦	城南中学校	中学校 理科	生徒が興味と意欲をもって学習に取り組む力学教材の研究 ——「運動とエネルギー」単元を通して——
有馬ゆかり	北茂安中学校	中学校 道徳	内面に根ざした道徳性を育む指導のあり方 ——一人一人の生徒の実態を生かした授業の構築——
前田 泰雄	伊万里中学校	中学校 教育相談	問題行動に対する教育相談の実践的研究 ——問題行動を示す児童生徒とその親への適切な対応を求めて——
久我 常人	打上中学校	中学校 C A I	中学校技術・家庭科「機械」領域における生徒の発想や工夫を生かすソフトウェアの開発
岩崎 俊郎	伊万里高等学校	高等学校 国語	小説教材における読解の方法化とそれを生かした指導法の研究 ——発問と「線引き」指導を中心にして——
山口 明德	唐津北高等学校	高等学校 理科	電気化学分野における実験教材の工夫 ——光化学電池の製作——
古賀 英之	多久工業高等学校	高等学校 理科	高等学校理科における放射能に関する教材の工夫と環境教育
古賀 博文	白石高等学校	高等学校 教育相談	問題行動に対する教育相談の実践的研究 ——児童生徒に対応するためのカウンセリング・マインドを求めて——
中原 貴博	大和養護学校	県立学校 特殊教育	障害児教育における教材・教具の製作と指導
原 龍太郎	盲学校	県立学校 教育工学	視覚に障害をもつ生徒のためのビデオの制作
清流 誠二	弘学館中学校・高等学校	私立学校 教育相談	問題行動に対する教育相談の実践的研究 ——カウンセリングの技法の習得と登校拒否の生理学的探求——
式町都茂子	神埼農業高等学校	高等学校 国語	教材に応じた学習プリントの類型化 ——教材別にみるプリントの分析表を通して——
角田 康幸	金立養護学校	県立学校 数学	『学習意欲が遅れてめばえた生徒のための「数学1」における二次関数の「学習の手引き」の作成』

指導資料ガイド

「国際理解教育」、「環境教育」、「技術・家庭科」に関する資料を紹介します。当教育センター資料室で御利用下さい。

「国際理解教育」		富山県総合教育センター	〔受付番号〕
○新教育課程の趣旨を生かした国際理解教育の在り方			92-140
○国際理解教育の設計と展開		大阪府科学教育センター	92-163
○国際理解教育への都道府県、政令指定都市の取組みに関する調査研究		中央教育研究所	92-175
○国際教育を効果的に実施する具体的方策について		日本私学教育研究所	93-31
○国際理解教育に関する調査と実践例の開発		千葉市教育センター	93-90
「環境教育」			
○中・高校生の環境問題についての意識と行動		大分県教育センター	92-155
○環境教育を進めるための児童生徒の意識調査		京都市立永松記念教育センター	92-284
○自然とのふれ合いや身近な環境との関わりを深める指導		栃木県教育研修センター	92-288
○日常生活の自己評価による環境教育		滋賀県総合教育センター	92-426
○学校における環境教育の在り方に関する研究		三重県総合教育センター	93-62
○地域の自然や身近な素材を活用した環境教育への対応		岐阜県教育センター	93-67
○環境教育教材の開発		東大阪市教育研究所	93-99
「技術・家庭科」			
○表計算、データベース学習の展開と活用における情報教育		大阪市教育センター	92-199
○技術的実践力の形成を図る学習指導		山梨県教育センター	92-218
○新学習指導要領「技術・家庭科」での「情報基礎」の取組み		沖縄市立教育研究所	92-235
○「情報基礎」領域の展開と指導法		愛知県教育センター	92-456
○技術・家庭科におけるコンピュータの活用		兵庫県立教育研修所	93-13
○家庭科、技術・家庭科の学習指導に関する研究（教材教具の開発）		長崎県教育センター	93-17
○「情報基礎」領域指導の充実に関する研究		岩手県立総合教育センター	93-51
○「情報基礎」の領域の指導法（BASICによるプログラミング学習を通して）		具志川市立教育研究所	93-112

再登校へ向けて!!

～「A君ノート」を活かして～

最後に面接の時に、お母さんが「授業参観に行って、声をはりあげて歌っている我が子を見た時、嬉しくて涙が出ました。」と言われたのが印象的でした。担任の先生は今でも、時々、近況を伝えてくださいます。

回 覧							

発行 佐賀県教育センター
〒840-02 佐賀郡大和町大字川上字西山
(TEL) 0952-62-5211
(FAX) 0952-62-6404